
【SS】余命確定

あくた咲希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【SS】余命確定

【コード】

N9185Y

【作者名】

あくた咲希

【あらすじ】

世界に蔓延する奇病、通称余命確定病。病気のメカニズムを解明しようとする僕の母も、それを発症した。

昔、文学フリマで配布してもらったフリーペーパーに載せたショートショートです。

新しい病気が世界に蔓延しつつある。

若返りの病。別名、余命確定病。

ゆっくり、徐々に発症してゆき、いくら若作りでもありえないだろう！という、診断がつく頃になるともはや手遅れ。加速度的に病状は進み、最終的には受精卵にまで逆戻り、消滅してしまう。治療法はいまだない。

このメカニズムからして不明な病に、僕の母親もかかってしまったらしい。もともと若ぶりな人だったが、今年五十歳のはずが二十代にしか見えなかった。僕の二十二歳になる妻とは、姉妹のように仲がいい。

「まあ、残りの人生を楽しむわよ」

あつけらかんと母は言う。この病気の患者は概して前向きだ。必死で病気を説明しようとする僕ら医療関係者は、しばしば悩まなければならぬ。

日に日に若返ってゆく母は、確実に死へと向かっているというのに明るかった。

病状は急速に進んでゆく。

「患者を前にシケた顔をするもんじゃないわよ？ 悲しむことはないわ、あんたたちのもとに生まれ変わってきてあげるから」

きやつきやつと甲高い笑い声が、二世帯住宅のリビングにこだました。

縮んでゆく母を抱きしめた妻が、泣きそうなのをこらえて僕を見る。

僕はといえば、そんな妻を母ごと抱きしめるしかなかった。

やがて妻が妊娠し、十月十日をへて、ぶじ子どもが生まれた。

妻のたつての希望で、母の名を受け継いだ僕の娘のアルバムと、

背表紙の色あせた母のアルバムは、隣り合ってリビングの本棚におさまっている。

* おわり *

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9185y/>

【SS】余命確定

2011年11月28日08時58分発行